

二大学間における双方向授業とその効果

—— 平成21年度の双方向授業から ——

安 原 順 子

1. はじめに

マルチメディアを使用した日本語教育の実践については、年々関心が高まっている。拙稿（2009a）では、神戸女子大学と提携校であるニュージーランドのオークランド工科大学（以下「AUT」）と略す）間で、AUTonline（AUT が管理する e-learning システム）を使用した二大学間の双方向授業について、その試行と平成20年度の授業について述べた。

平成21年度は、授業を通してさらに互いにプラスになるような交流を目的に、二大学の学生が、ブログや携帯電話、iPod などの携帯用機器を使用し、コンピュータを媒介にした日本語教育と日本語教員養成の双方に有益な双方向授業を行った。ニュージーランド AUT は、本学の提携校である。AUT では、2006年度より、夏休みに神戸女子大学学生が「短期日本語教育研修」を行っている。また、AUT では積極的に授業にマルチメディアを使用してあり、双方向授業の試みに必要な情報機器を準備することができる。

本稿では、平成21年度の双方向授業を通して、その授業の概要とその効果についてさらに検討する。

2. 先行研究

日本語教育分野に関しては、国内では（社）私立大学情報教育協会の主催で「教育改革・IT 戦略会議」が毎年開催され、e-learning、iPod、ブログなどを使用した日本語教育の試みも多数報告されている。また、加藤由香里（2008）『日本語 e ラーニング教材設計モデルの基礎的研究』などマルチメディア使用に関する書籍も出版されている。海外では、2007 年ハワイにおける第 3 回「日本語教育とコンピュータ」国際会議（Castel-J）や2009年度豪州日本研究大会・日本語教育国際研究大会（JSAA-ICJLE 2009）が開催され、国内外の日本語教育において、マルチメディアを使用した日本語教育への関心は高まっている。

日本語教育を異文化間コミュニケーションの一形態であるとするならば、外国人との関わり方は、一方的なものではなく互恵的で双方向的でなければならない。日本語教育に

(2)

関わる双方にプラスになるような双方向的な日本語教育が必要となる。しかしながら、現在までのマルチメディアを使用した教育方法は、どれも一方向的な日本語教育の形を取ってきた。

この現状を踏まえて、筆者は、海外共同研究者である^{法1}Chikae Sayer とともに、2007年3月より、神戸女子大学と提携校であるニュージーランドのオークランド工科大学間で、AUTonline を使用した双方向授業を試行し、試行の結果と問題点を2008年と2009年に「教育改革・IT 戦略会議」で報告した。

3 . 現在までの試行状況

筆者は、2007年3月より、神戸女子大学とAUT間で、日本語教育コース受講生と日本語学科学生とのブログを通じた交流を試験的に始めた。また、2008年度3月からは、神戸女子大学の日本語日本文学演習Ⅱ受講生と、AUTの日本語作文授業受講生で、AUTの授業での課題である自作作文をAUTonline上のブログで公開し、そのブログにアクセスした担当の本学学生から批評やアドバイスを受けるという双方向授業の試みを開始した。

本格的な双方向授業を想定した準備段階の交流ではあったが、神戸女子大側には、実践を通した学生の日本語教育に対する意欲の向上、AUT側には、授業の課題提出数の向上、ブログへの日本語での積極的な書き込みが見られるなど、双方に十分有益であるという結果が得られた。しかし、学生同士の交流方法、情報機器の整備状況など、いくつかの問題点も見られた。

4 . 双方向授業のための課題

平成21年度からは、以下の研究課題を明らかにするための研究を行う。

研究課題1 日本語教育と日本語教員養成のための双方向授業という教育方法を確立する。

研究課題2 実際の授業を通して双方向的授業の効果を質的・量的に検証する。

この課題を明らかにするために、神戸女子大学とAUTでそれぞれさらに研究課題を設定し、神戸女子大学の日本語教員養成側からと、AUTの日本語教育側からの二つの視点に沿って研究を進める。

〈神戸女子大学〉

外国人の書いた日本語を読んだり、話した日本語を聞いたりすることが、日本語教員養成にどのように役立つかを、質的にリサーチする。

〈AUT〉

日本人学生から直接コメントを受け取ることにより、学生の授業参加への意欲はどのように変化するか、日本語力の向上にどのように結びつくかを、質的・量的にリサーチする。

5．予想される結果と意義

本研究の特色は、学生を主体にした海外の大学との双方向授業という教育方法を研究する点である。

- (1) 双方向的授業により双方の学生にプラスとなる

神戸女子大学の学生は、自身の日本語・日本語教授法研究に役立つ。AUT の学生は、同世代の日本人学生を通して、さまざまなスタイルの日本語に触れることができる。

- (2) 学生にとって、手軽に持ち運びができ、興味の持ちやすい携帯用機器を使用するパソコンを使用できない環境でも、いつでも授業に参加できる。
- (3) 教師にとって、ICT の特別な知識を必要としない

特別に専門的な知識を必要としない形態をとるため、ICT の専門家でなくとも、前向きに授業を担当することができる。

6．研究目的

本研究の目的は、マルチメディアとしてブログや iPod を使用し、パソコンを媒介にした日本語教育と日本語教員養成に資する新しい双方向授業の方法を確立、その教育方法を質的・量的に研究することにある。

日本語教育は異文化間コミュニケーションの一形態であり、外国文化・外国人との接触は、一方向的なものではなく双方向的でなければならない。すなわち、日本語教育に関わる双方にプラスになるような双方向的な日本語教育が必要である。本研究では、神戸女子大学とオークランド工科大学との間で双方向授業を実施し、実践的な研究を行う。

7．平成21年度の双方向授業

平成21年度は、下記の課題を明らかにするために、(1)ブログを使用する文字を媒介にした授業と(2)ポッドキャストを使用する音声を媒介にした授業を実施して、考察した。

課題：双方向授業による二大学学生の意欲・知識の習得に対する意識の変化

効果の検証方法の一つには、reflective journal を使用し、学習者である大学生が

(4)

各自の学習経緯を振り返りながら双方向授業に参加する。

課題：双方向授業として求められる授業方法

7.1 授業の準備

- (1) AUTonline 上に双方向授業のために、専用のブログを立ち上げる。
- (2) 専用のブログにアクセスするために、教員、参加学生は、それぞれパスワードを受け取る。
- (3) 教員がサンプルブログを立ち上げ、実際の授業にどのように本研究の特色を使用するかを示す。
 - ① 作文用のブログの使用方法、コメントの書き方
 - ② ポッドキャストのためのボイスボードの使用方法

さらに、神戸女子大学とオークランド工科大学 (AUT) は、学生の個人情報の保護について細心の注意を払い、以下の取り決めを遵守して研究を遂行した。

- (1) 本研究で使用する AUTonline の Blackboard は、AUT が担当教員と双方向授業参加学生にのみ発行するパスワードを使用してはじめて、閲覧や書き込みが可能になる。そのため、限られた人員しか、授業に使用するブログやボイスボードを使用できない。
- (2) 神戸女子大学では、授業参加学生に、個人情報を研究以外の目的で使用しないこと、また個人のデータについても、名前を公表したり、個人の名前が特定されたりするような形でデータの公開を行わないことを確約している。その合意の上で、学生との間でデータの使用が可能であるという承諾書を作成、神戸女子大学ヒト研究倫理委員会に審査を申請し承認を得る。
- (3) AUT では、学生を対象にしたリサーチを行う際、すべて事前に学内の倫理委員会である Auckland University of Technology Ethics Committee (AUTEC) に許可申請書を提出し、学生、教師双方の人権の保護、およびワイタング条約の遵守等についての審査を受け、リサーチの承認を得なければならない規程である。この規程により、学生との間で承諾書を作成する。平成21年以降の授業については、平成20年12月に申請書を提出し承認されている。

7.2 双方向授業の実際

研究方法 平成21年度の試行授業の反省点（研究方法の「*」マーク）を踏まえて、これを行った。

対象となる授業科目：

神戸女子大学... 3年生主体の日本語日本文学演習Ⅱ（日本語教育ゼミ）

AUT... 3年生主体の Japanese 5 (以下「Jp5」と略す。AUT日本語科では最上級レベルの日本語クラスで、ヨーロッパ共通参照枠 CED・B2レベルに相当する。)

参加学生数：神戸女子大学...10名、AUT...14名

授業方法：

(1) ブログ使用の授業：文字を媒介にした双方向授業

- 使用教科書：鎌田修 (2001) 『中級から上級への日本語』 The Japan Times

テーマ 1	地球を守る	テーマ 4	日本の子供たち
テーマ 2	心と体のバランス	テーマ 5	女と男
テーマ 3	今どきの大学生		

- 授業の進め方：

- ① AUT 学生 3、4 名と神戸女子大学生 2、3 名でグループを作る。
- ② グループごとに一つのブログを用意する。(全体で 4 グループ)
*すぐに授業を始めるのではなく、事前の学生同士の交流に時間をかける。
- ③ AUT 学生は 2 週間ごとに各テーマについての作文をブログに書き込む。
- ④ 神戸女子大学生は、それに対するコメントをブログに書き込む。
*一方的な自分の意見の押しつけにならないようコメントの内容を工夫する。
- ⑤ 神戸女子大学生は、日本語教育ゼミに、AUT 学生は Jp5 にその結果を持ち帰り、各授業で、フィードバックされた内容を検討し、共有する。

(2) ポッドキャスト使用の授業：音声を媒介にした双方向授業

- 使用教材：ポートレート (2001 年から 2004 年まで関西地方を中心に放映されたテレビ番組で、日本の著名人へのインタビューが 90 秒で収められている。使用許可受諾済み。)

- 授業の進め方：

- ① 担当教員が「ポートレート」のインタビュービデオを使用したビデオポッドキャストを、毎週月曜日に AUTonline 上の各グループのブログに配信する。
- ② 神戸女子大学生は、AUT 学生の内容理解を確かめるため、事前にビデオを視聴して質問を三つ考え、月曜日にボイスボードにのせる。
- ③ AUT 学生は、iPod やコンピューターを使い、答えを考えて、グループのボイスボードにのせる。
*期日を守って、音声の公開をするよう努力する。
- ④ 神戸女子大学生は、音声で答えを聞き、音声でそれに対して答え、ボイスボードにのせる。
- ⑤ AUT の授業では、隔週の木曜日に、ビデオについてのディスカッションを行い、それを録音しブログにのせる。神戸女子大学生もそれに音声で答える。

*グループでの交流以外に、授業参加者全体での交流を付け加える。

年度末：アンケート、インタビュー、課題提出、reflective journal、試験などを通して、平成22年度の課題について検討する。神戸女子大学生については、外国人学生の日本語から、文法・音声の誤用をどのように改めて認識したか、AUT 学生については、日本人学生と接して、日本語に対する学習姿勢はどのように変化したかなどを中心に、質的・量的に検討を進める。

さらに、授業を計画どおりに進めるため、以下のような対応をした。

- (1) 授業の内容については、担当者がメール、^{注2}スカイプなどで連絡を取り合って進めていき、計画の修正が必要な場合は、迅速に対応した。
- (2) 試行時に問題の多かった情報機器のトラブルについて筆者や海外共同研究者が対処できない場合は、両大学の情報機器専門家のバックアップを受けた。また、情報機器関連の新しい情報や機器的使用方法についても、随時説明を受けた。

8．双方向授業の効果と問題点

8.1 アンケートと聞き取り調査

授業終了後に、神戸女子大学と AUT で、アンケートおよび聞き取り調査を行った。双方の大学で、学生へのアンケート、インタビュー、課題提出、reflective journal、試験などを通じて、平成21年度の課題について検討した。神戸女子大学生については、外国人学生の日本語から、文法・音声の誤用をどのように改めて認識したか、AUT 学生については、日本人学生と接して、日本語に対する学習姿勢はどのように変化したかなどを中心に、質的・量的に検討を進めた。

8.2 reflective journalの使用

reflective journal は学習ダイアリーとも称され、常時、各自が学習を自己評価、その結果を online で提出し、「学習の振り返り」を行うために使用する。

reflective journal は、学習ポートフォリオとは明確に区別されるべきものであるが、共通点が多い。宮崎（2009）は、学習ポートフォリオの有益性は学習者に以下のことを意識させることができる点にあるとしている。

- (1) 評価は、「教育－学習プロセス」において不可欠なものである
- (2) 学習のプロセスと結果の両方に焦点をおくことが重要である
- (3) 教師と学習者の両方で習得過程をモニターする必要がある
- (4) 技能の向上は、教師にも学習者にも役立つ方法で明示化されるべきである

また、さらに、以下のように述べている。

学習者は、自律学習によって、「計画者」としての自立性を高め、「情報提供」を受け、「学習管理」を行うように促される。学習者が自律学習能力を高めていく中で、タスクをどのように実践していくかを意識したり、教師が丁寧に観察したりする行動は習得過程の分析に役立つと思われる。

以上の点から、双方向授業の効果を検証するために reflective journal を使用することには、十分な意義があるものと考えられる。今年度は試行期間として、神戸女子大学と AUT で、次のような reflective journal を使用した。

神戸女子大学では一度、AUT では二週間に一度の割合で書面、またはブログ上の reflective journal に書き込みを行わせた。来年度からは、さらに reflective journal の回数を増やし、その自己評価と学習経緯、意識の変化についてまとめる予定である。

日文ゼミⅡ（ユニット6 心と体のバランス まで）

1. この数週間で私が学んだことは・・・
 - ・日本語を教えるのは簡単ではないということ。
 - ・「日本人のように」日本語を使いたいと思っている日本語学習者が多いこと。
2. この数週間で私が練習したことは・・・
 - ・ただ感想を書くだけでなく、日本のことも含めて書いた。
 - ・ボイスボードに定期的に、音声をあげることができた。質問も、相手が答えやすいようによく話し合って考えた。
3. この数週間で難しかったこと、うまくいかなかったことは・・・
 - ・ボイスボードに音声をあげること。
4. AUTonline での AUT の学生との交流について。
 - ・他の国の人と交流することは楽しいし、自分自身の日本語教員の勉強にもなる。
 - ・普段の生活とは違うことをしているので、楽しい。
5. 作文へのコメントはどうでしたか。
 - ・毎回、返しました。
 - ・日本語の文章が上手で、返事が書きやすかった。
6. AUT の学生にコメントを返しましたか。
 - ・コメントのやりとりがなかった。
7. AUTonline をどのくらい使いましたか。
 - ・週に一、二回使いました。
8. 何でも自由に感想を書いて下さい。

(8)

- もう少し交流ができれば良かった。

JP5 (ユニット6 心と体のバランス week3-& week5 などから)

1. この3週間で私が学んだことは・・・
 - 漢字を書くことだ。
2. この3週間で私が練習したことは・・・
 - ポットキャスト、聴解、文法、語彙
3. 私が日本語を使った場所は・・・
 - スカイプ、大学
4. 日本語を使った相手は・・・
 - 日本人や同級生
5. この3週間で私がよくできたと思うことは・・・
 - 授業のディスカッションで参加すること
6. この3週間で難しかったこと、うまくいかなかったことは・・・
 - なんといっても、聴解です。
7. AUTonline での神戸女子大学の学生との交流について。
作文へのコメントはどうでしたか。参考になりましたか。
 - 一つしか、コメント残ってないんですけど、そのコメントはとてもよかったです。
神戸女子大の学生さんにコメントを出しましたか。
 - ブログにコメントを書きました。
8. AUTonline をどのくらい使いましたか。
 - 週に三、四回使いました。
9. 次のユニットでは、どんな勉強や練習をする予定ですか。
 - 特に聴解の練習をしていきたいと思います。
10. 何でも自由に感想を書いて下さい。
 - 世界的な問題について、もっとくわしく知れた。

9.2 まとめ

神戸女子大学

- (1) ブログを通して外国人の日本語の読み、書きを考察する。
課題作文を読んで、コメントを掲載することで、外国人の日本語について文法の誤用、日本語の教え方について直接知ることができ、日本語教員としての基本的知識の習得に役立った。
- (2) ポッドキャストの使用に際し、内容について、AUT 学生に質問することで、

質問文作りのポイントがわかるようになった。さらに、音声を中心にした日本語指導では、外国人学習者の発音の問題点を正確に捉えられるようになった。

- (3) AUT 学生とのやりとりの中で、異文化に直接触れて、日本との違いを考えることができた。

これらの成果は、日本語日本文学演習Ⅱ（日本語教育）に持ち寄り、お互いに発表し、内容を精査した結果である。

AUT

- (1) ブログを通して日本人学生から直接コメントをもらうことで、学生の日本語学習意欲が高まった。作文の提出率が向上し、課題作文以外にも、AUTonline を通して、日本人学生と日本語での交流をしようとする学生がみられた。
- (2) ポッドキャストの使用により、授業外でも、都合の良いときにビデオを見ながら聴解練習ができるようになった。
- (3) 同世代の学生と日本語で交流し、さまざまな日本語に触れることができ、教科書の枠を超えた学習ができた。

9.3 平成21年度の問題点

- (1) 日本とNZのコンピュータの使用環境や準備状況の差
日本で NZ と同様の環境を整えるまでに時間がかかった。また、自宅のコンピュータでは AUTonline を使用できない学生もいた。
- (2) 携帯電話や iPod をさらに効果的に使用した授業のあり方
日本では携帯電話を主に、NZ では iPod などの携帯用機器を、さらに積極的に双方向授業で活用することが必要である。
- (3) ブログやポッドキャスト使用の際の、質問や答え、コメントの出し方
さらにお互いの興味を引くような工夫が必要であるが、文法的な問題点や内容を日本人学生がどのように指摘するかを、互いに確認してから授業をはじめることが重要である。
- (4) すぐに授業を始めるのではなく、事前の学生同士の交流に時間をかける
スカイプでのリアルタイムの交流を何度か試みたが、授業開始前の交流は、授業の開始時期の差もあり、できなかった。
- (5) グループでの交流以外に、授業参加者全体での交流を付け加える
Wiki を使用したが、十分な交流とはいえなかった。

9.4 平成20年度課題の検討

課題：双方向授業による二大学学生の意欲・知識の習得に対する意識の変化

(10)

上記のアンケートや個別のインタビュー、reflective journal から、双方向授業の形態では、神戸女子大学でも AUT でも授業に対する意欲が高まった学生が増えた。

課題：双方向授業として求められる授業方法

今後さらに授業方法を改善していけば、双方向授業として、双方にプラスになる授業形態を確立することができると確信を深めた。

9.5 平成22年度以降の授業

平成22年度以降も、同様の双方向授業を行う。しかし、マルチメディアについては、その技術の進歩はめざましい。平成22年度以降には、以下の点に留意する。

- (1) 技術の進歩に合わせて、さらに効率よく双方向授業が行えるように随時工夫をする。
- (2) 学生から要望が強かった「授業の中で、直接会話をしたい」という声に応え、ディスカッションなどを双方向でリアルタイムに行えないか検討する。
- (3) 現在整備中の神戸女子大学 online 上での双方向的交流を開始する。

10. おわりに

双方向授業の試みは、日本とニュージーランドの二大学間で始まったばかりであるが、年を重ねるごとに、進歩を見せている。実施にはまだ多くの問題点もあるが、マルチメディアを使用した新しい授業形態として、双方向授業が学生の意欲や能力をお互いに相乗的に向上させることは立証された。

今後は上記にあげたような問題点について考えながら、効果の客観的な検証にも焦点を置いて双方向授業を継続していきたい。

また、本研究課題であるマルチメディア使用の双方向教育の形態は、他の外国との交流にも使用予定であり、さらに波及的な効果が期待できる授業形態であるといえる。

本稿は、平成21年度神戸女子大学特別助成金の交付を受けて行われた研究の成果である。

注

- 1 本申請の海外共同研究者で、AUT 側の調査・研究を担当している。専門は日本語教育学。Auckland University of Technology, Faculty of Applied Humanities, 講師。
- 2 主としてコンピューターを使用した無料の通話システムを指す。

参考文献

- 加藤由香里 (2008) 『日本語 e ラーニング教材設計モデルの基礎的研究』 ひつじ書房
- 伴 紀子監修 (2009) 『タスクで伸ばす学習力』 凡人社
- 安原順子 (2008 a) 「二大学間における双方向授業の試み」 『神女大国文』 第19号
- 安原順子、Chikae Sayer (2008b) 「二大学間における双方向授業の試み」 平成20年度教育改革・IT戦略会議予稿集
- 安原順子、Chikae Sayer (2008c) 「二大学間における双方向授業の試み」 平成20年度教育改革・IT戦略会議、口頭発表
- 安原順子 (2009a) 「二大学間における双方向授業の効果と問題点－平成20 年度の双方向授業から－」 『神女大国文』 第20号
- 安原順子、Chikae Sayer (2009b) 「二大学間における双方向授業の効果」 平成21年度教育改革・IT 戦略会議予稿集
- 安原順子、Chikae Sayer (2009c) 「二大学間における双方向授業の効果」 平成21年度教育改革・IT 戦略会議、口頭発表
- Chikae Sayer (2008) 「AUTonline を使った神戸女子大学との双方向教育の試みについて」 Staff Professional Development day、口頭発表